

## 膵癌の治療のため手術を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター 外科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	術前化学療法施行浸潤性膵管癌における HALP スコアの臨床的意義の検討
【研究実施期間】	倫理委員会承認後～2026年3月31日
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 外科 研究責任者 井口 友宏
【対象となる方】	西暦2017年7月1日から2024年3月31日に外科にて膵癌に対し術前化学療法としてゲムシタビン + S1療法施行後に根治手術を受けた方30名
【研究の意義、目的、方法】	HALPスコアはヘモグロビン、アルブミン、リンパ球、血小板を組み合わせた栄養学的及び免疫学的状態の包括的なマーカーであり、様々な腫瘍の予後予測に有用であると報告されています。 本邦において膵癌に対する根治手術を行う前に化学療法(ゲムシタビン + S1療法)を行なうことが推奨されています。しかしながら、術前化学療法を行ったにも関わらず、残念ながら早期に再発を来してしまう方もおられます。 どのような患者さんが術前化学療法、根治手術後に早期に再発しうるかを予測することができれば、術前化学療法の内容や期間などについて検討することができるかもしれません。 当院における術前化学療法の効果を検討し、術前化学療法・根治手術後に早期に再発することを予測しうる臨床データ

	を同定します。
<b>【利用する試料・情報の種類】</b>	膵癌の診療に関する臨床データ（年齢、性別、身長、体重、BMI、病名、病歴、血液検査、画像検査、病理検査、術後の転帰）
<b>【個人情報の保護】</b>	研究に際して、生年月日、カルテ番号、住所、氏名などの個人が特定できる情報は収集しません。また、研究の結果を公表する際も個人が特定できないよう配慮いたします。
<b>【問い合わせ先】</b>	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 外科 井口 友宏 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）